総同盟内紛問題ニ干スル報告

毎月発行される機関紙の労働者新聞が今月は色々の事情の為め、発行がおくれ従って目下問題になってゐる総同盟内紛問題に就いても適確な報道が諸君の手許に届いてゐないと思ひますから不取敢簡単に経過を報告します。

事件の発端

三月中旬の全日大会に於て各組合の中村義明君、鍋山貞親君、京都の辻井民之助君、関東地方評議会山本懸蔵君等が各々の所属組合の立場及全日的な情勢より見て中央委員中の一部の意見行動、並に政治部活動及方針又は政治部費用として組合費以外に金十銭を徴集する案等に対して質問或ひは意見を述べた所如何なる理由か中央幹部の御気嫌を損ね、遂に前記四名と関東地方評議会の杉浦啓一君、渡辺政之助君（共に当日単なる傍聴者）合計六名除名すべしとの要求が中央委員中の一二の人に依って醸され、大会の第三日目より漸く此問題の為に各組合は寄々協議を為し他の重要な議案は有耶無耶の中に通過し去ったの感があった。所が斯る無暴な問題に対しては素より反対多く遂に当日除名問題は議題に上らず全日大会は無事閉会された。

然るに右の[illegible]